

漆芸美術館だより



重原雪花／東京藝術大学卒業《心地好い感覚》（帝京大学所蔵）

95

生新の時 2022—漆芸の未来を拓く—
うるしの昆虫館—むしむし大集合!—
輪島塗大型地球儀「夜の地球 Earth at Night」公開
令和3年度寄贈品紹介
ミュージアムショップからのお知らせ

2022年5月31日発行

生新の時2022―漆芸の未来を拓く―

2022年5月14日(土)〜7月3日(日) *会期中無休

大学や大学院で漆工芸を学び、今春卒業および修了した作者の漆芸作品を展示する本展覧会は、2008年度に始まり今年で14回目を迎えました。近年、大学においてはリモートによる授業形態も定着してきましたが、そうした傾向にある今だからこそ、制作を通じて作品と向き合う時間は尊いものです。学びの集大成となる作品からは作者の強い思いが伝わります。

緩急自在、縦横無尽に稜線が巡り、ぶつかり、それらによって切り取られた曲面もまた、時にうねり、またある時は平坦に現れます。本作《巡憶》(図1)のモチーフである「夢」について、作者は意識下、無意識下にかかわらず残っている、自身の記憶を巡る旅であるとしています。本作が磨き上げられた漆の艶で覆われることにより、それぞれの曲面があらゆる角度から周囲を反映します。そこには意図することの可能な情景がどれだけ存在できるでしょうか。作品がもつ偶発性には「夢」に近いものを想像させます。

《心地好い感覚》(表紙)は、具体的な造形によって見えないものを巧みに感じさせています。足下をまっすぐ泳ぐ活き活きとしたイルカの描写に、抵抗なくすり抜けていく速い水の流れに身を置くような感覚がします。流線形のイルカの身体の滑らかさを引き立てるのに、漆ほどどうってつけの素

材はありません。濃い青の身体に施された螺鈿の泡が水流のなかできらめく光を描き出し、眺めるだけで心地よさに包まれるようです。

《暈塗梯梧沈金筒「赤霞」》(図2上)からは、沈金で線描されたデイゴの花とぼかし塗が相まって、暗闇から鮮烈な朱に染まっていく景色が想起されます。《堆錦総貼筒「群青」》(図2下)は干潮時に姿を現すサンゴ礁「リーフ」を表現しています。堆錦技法によるごつごつとした凹凸とその隙間から覗く螺鈿の魚影が岩礁の情景を鮮やかに描きます。時間の経過によって日々もたらされる、地域特有の「あわい」の美しさを、それぞれの作



図1 堤琴音 (金沢美術工芸大学卒業) 《巡憶》



図2 宮平京弥 (沖縄県立芸術大学卒業) 上から《暈塗梯梧沈金筒「赤霞」》《堆錦総貼筒「群青」》

品に込めたといえるでしょう。

自身の内面とじっくりと対話し練り上げ、考え抜かれた表現の独創性は新たな発見や驚きを与えてくれます。ぜひお運びください。(寺尾藍子)

*本展覧会会期中に限り、大学生以下は無料です。入館できません。

トークセッションオンライン公開

コーディネーター…小椋範彦氏(東京藝術大学教授)
公開期間…6月18日(土)〜7月31日(日)

作品のオリジナリティをテーマとした、出品者によるトークセッション動画をオンライン上で公開します。

うるしの昆虫館―むしむし大集合！―

2022年7月9日(土)〜9月11日(日) *会期中無休

身近な自然を題材として制作を行うことは、絵画や工芸美術の世界で盛んに行われてきました。漆芸の世界でも、色とりどりで繊細な虫たちの姿を、多彩な加飾技法によって優美に表現しています。

本展覧会では、チョウやトンボ、ホタルなど、自然豊かな日本において身近な存在である昆虫をモチーフにした漆芸作品の数々を展示します。ここでは、その中から3点を紹介します。

道上正司《春ざれ沈金手筥》は、長方形の筥に水を飲むアオスジアゲハの群れを沈金で描いた作品です。伸びやかな線で翅の輪郭や触角を、胴体は細かな線を密に彫り、特徴的な翅の帯は点彫の粗密によって際立たせています。

人が近付くと地面から飛び、数メートル先の地面に降り、近付くとまた飛ぶ、という行動を繰り返す姿が道案内をしているように見えることから、ハンミョウには「ミチオシエ」、「ミチシルベ」といった別名があります。太田儔《蒟醬香盒道しるべ》は、美しい色彩を持つハンミョウを題材にした作品です。蒟醬とは塗面を剣(彫刻刀)で彫り、彫り溝に色漆を埋めて研ぎ出し、文様を表す技法です。足や触角は細く変化のある線を精巧に彫り、体は赤・青・緑などの色漆をぼかし埋めることで、独特の金属的な色合いを見事に表現しています。

水辺に住む昆虫を描いた作品もあります。天野



道上正司《春ざれ沈金手筥》
1985年第32回日本伝統工芸展



太田儔《蒟醬香盒道しるべ》
2005年頃



天野策地《静池》
1978年頃

策地《静池》は、様々な水草が花を咲かせる水面に、3匹のアメンボがのびのびと浮かぶ情景を描いています。メキシコ鮎の厚貝を用いた螺鈿によって、ホテイアオイの淡く美しい花が涼やかに咲いています。アメンボは触角から足の先まで抑揚のある線で描かれており、今にもすすいと動き出しそうです。金銀の板金や正方形に切り抜かれた貝、平目粉などを効果的に用いることで、葉に付いた水滴や水面のきらめきを表現しています。

この他にも夜の水辺を飛び交うホタルや、すすき野を群れで飛ぶトンボ、春の草花とともに描かれたチョウなど、漆で描かれた様々な昆虫を紹介いたします。多様な加飾技法によって表現される虫たちの世界を、ぜひ会場でお楽しみください。

(福江里美)

セミナー情報

「漆で描かれた昆虫たちについて」

日時：8月21日(日) 14時〜15時

講師：石川卓弥氏(石川県ふれあい昆虫館学芸員)
会場：当館講義室(要予約 定員30名・聴講無料)
対象：小学校3年生以上(大人のみの参加も可能)

展示作品のモチーフとなった昆虫について、その生態を中心にご解説いただきます。親子で昆虫について学べるセミナーです。

*講師はりもーと出演のため来場しません。

*中止・変更となる場合があります。最新の情報は公式HP等でご確認ください。

輪島塗大型地球儀 「夜の地球 Earth at Night」 公開

輪島塗技術保存会が制作した輪島塗大型地球儀の完成記念式典が2022年3月5日、輪島漆芸美術館エントランスホールで行われました。輪島市の依頼により、木地、髹漆、呂色、蒔絵、沈金の各部門の技術者計37人が2017年から5年の歳月をかけて取り組んだもので、輪島塗の伝統を継承しながら、漆芸の可能性に挑んだ大型オブジェとして技と美を結集した大作です。

作品名は「夜の地球 Earth at Night」。高さ、幅ともに1.5メートルにおよぶこの作品は、蒔絵と沈金の技術を巧みに融合させ、宇宙から見た地球全体の夜景を、艶やかな漆の黒ときらめく金の輝きで表現しています。また、



大型地球儀が展示されている特別展示室には、東京・北京・ロンドン・ニューヨークの夜景を、金とプラチナを主体に仕上げた蒔絵パネルも展示されています。

完成記念式典では、輪島塗技術保存会の小森邦博会長が「熟練の技術者でも新たな学びを経験した。試作を重ねた技術者たちの創意と努力を見ていただきたい」とあいさつしました。また、本事業への助言等で貢献された山崎剛金沢美術工芸大学学長に感謝状が贈呈されました。

展示室3では「夜の地球 Earth at Night―隠された技をたどる―」展が同日

オープンし、制作過程で生じた試作品や使われた道具、制作風景の画像等が展示されています。同展は好評につき、9月11日まで会期を延長することとなりました。

輪島塗大型地球儀「夜の地球 Earth at Night」は、休館日を除き1階特別展示室にて常時展示されています。

You Tubeにて特別映像公開中！



▼令和4年度友の会会員募集中

当館では魅力的な特典満載の友の会入会を随時受付けております。

▽会員の特典

- 1 招待券が進呈されます。
 - 2 展覧会の入館料が、会員及び同伴者2名まで団体料金となります。
 - 3 相互割引提携館主催の展覧会入館料が、団体割引となります。
 - 4 「友の会たより」「漆芸美術館だより」ほか美術館情報等の提供が受けられます。
- *この他にも会員限定の催し、特典があります。

▼令和3年度寄贈品紹介

令和3年度は次の33件の寄贈がありました。ご支援賜りました皆様には感謝申し上げます。



沈金春愁文漆箱 1989年 / 前 史雄 作

会費

個人会員	1年	1,000円	2年	2,000円
家族会員*1	年額	2,000円		
賛助会員*2	年額	5,000円		

*1 代表者と生計を共にする2名以上

*2 本会発展にご協力いただける個人及び団体



大岡與三次《絵替沈黒角皿》



舟掛道雄《海老沈金色紙笥》



笹谷宗右衛門《見本椀各種》

- 忍冬蒔絵手筈 / 一后一兆
花蒔絵茶箱 / 一后一兆
鶴文片切沈金飾筥 / 藤井観文
木之実蒔絵扇面形菓子皿 / 初代 西塚朝光
以上、谷内孝廣氏
- へぎ板三段重箱 / 赤木明登
輪島塗奥羽椀 / 赤木明登
沈金箱「日和」 / 西勝廣
見本椀各種 / 笹谷宗右衛門
梨地秋草蒔絵德利
椿樹彩漆密陀絵盆
葡萄栗鼠箔絵盆
吉野絵盆
海松貝蒔絵酒器
鉄線蒔絵小手箱
秋海棠蒔絵小鼓胴
- 以上、赤木明登氏
西勝廣氏
笹谷俊郎氏
- 籬に菊蒔絵箱
葡萄蒔絵重箱
漆絵丸盆 / 三代 三木表悦
洗朱菓子盆 / 赤地 友哉
黒漆塗茶中入 / 赤地 友哉
独楽一閑茶入 / 増村 益城
橙香合 / 増村 益城
屈輪文椀
黒塗蓋付壺
チリケース
螺鈿輪花盆
海老沈金色紙笥 / 舟掛道雄
海老素彫硯箱 / 舟掛道雄
沈金象嵌菱形皿
以上、舟掛研二氏
- 絵替沈黒角皿 / 大岡與三次
紫檀目塗四方盆 / 新保由太郎
波文盆 / 象福
漆器凶案・関係資料 / 天野文堂
以上、匿名希望個人
日吉慶子氏
- 以上33件(受納受付順)

ミュージアムショップからの お知らせ

◆ショップリニューアル◆

2022年3月、ミュージアムショップがリニューアルしました！
白漆の柔らかな色味が特徴的な陳列台となっています。

輪島漆芸技術研修所を卒業し、県内で制作を続ける若手作家
を応援する「チャレンジショップ」や、当館公式キャラクター
「わんじま」オリジナルグッズ、所蔵作品をモチーフにした文
房具や漆芸関連書籍など、漆芸美術館ならではの商品を販売し
ています。是非お立ち寄りください。



NEW!

◆新商品紹介◆

3月より公開となった輪島塗大型地球儀《夜の地球 Earth at
Night》と、特別展「彫りを彩る一人間国宝 山岸一男の世界」(9月17日～11月6日)開催を記念したチケットホルダー
がミュージアムショップにて新発売！



開館時間

9:00～17:00
(入館は閉館の30分前まで)

入館料

	個人	団体(20名以上)
一般	630円	520円
高大学生	320円	210円
小中学生	150円	100円

*5月14日から7月3日まで大学生以下無料

アクセス

- ◎飛行機
羽田空港から約60分
※のと里山空港から車で約20分
- ◎車
金沢市内※のと里山海道利用＝約100分
(自家用車・大型バス無料駐車場有)
- ◎特急バス
金沢駅※北鉄奥能登バス・北鉄金沢バス
輪島特急線「輪島駅前」下車＝約120分
- ◎「輪島駅前」から
▶のらんけバス海コース「漆芸美術館」下車
▶徒歩約15分



〒928-0063
石川県輪島市水守町四十苅11番地
TEL 0768-22-9788
FAX 0768-22-9789
<https://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>

ご来館のお客様へお願い

■新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底のため、ご来館時にはマスクの着用、手指の消毒をお願いいたします。また、検温を実施し、37.5℃以上の発熱がある場合、入館はご遠慮いただきます。混雑時には入場制限を行うことがございます。詳細な取り組みにつきましては、事前にホームページ上で「ご来館の皆様へ」をご確認ください。